

社会資本整備審議会道路分科会

第19回東北地方小委員会

【議事録】

○議事

1) 計画段階評価

・国道4号矢吹鏡石道路

浜岡委員長 今回の議事ですが計画段階評価で2点。国道4号矢吹鏡石道路、国道108号石巻河南道路。地域概要から今後の手続の進め方まで全て説明後、質疑・応答を行うという流れで進めます。それではお願いします。

計画段階評価

・国道4号 矢吹鏡石道路

大村所長 本資料の順番ですが、計画対象区間、地域の現状と課題、道路交通の現状と課題、地域に配慮すべき事項、政策目標の素案、政策の将来像との整合、政策目標の案、意見聴取方法（案）、今後の計画段階評価の進め方（案）の順で進めます。

P1、計画段階評価の対象区間について説明します。白河市、須賀川市、郡山市、矢吹町、鏡石町他4町村の合計3市2町4村で構成される地域。人口は合計約54万人です。対象地域内に東北縦貫道が縦断しており、あぶくま高原道路が福島空港へのアクセスルートを形成しています。

P2。矢吹町と鏡石町を結ぶ、延長約5kmの2車線道路です。そのうち市街地となる矢吹町は、H30年代に現在の4号がバイパスとして整備されました。S62年には4号の東側に用途地域がありました。JR矢吹駅西側中心に市街地が形成されています。

鏡石町も同様に30年代に現在の4号がバイパス整備され市街地を、昭和48年に用途地域が設定され、4号沿線が市街地となっています。地域形成は4号が市街地を通過する形となり、交通量の増大に伴い4車線化を南進してきました。南側の白河市、西郷村の交通混雑区間は4車線化完了済です。対象区間は両側を4車線区間に挟まれた2車線区間で、国道4号のボトルネックとなっております。

P3、この地域の人口について説明します。表記の右上グラフは、対象地域の人口は、全国と同等に伸び率で推移しています。なお全国が黒、対象地域が赤です。右下グラフは、

年代別の人口構成を示しております。50～60歳代の生産年齢人口の割合が高く、今後10年、高齢化が急激に進むことが予想されます。

P4、交通流動について説明します。赤表記が通勤・通学に自家用車を利用部分する割合で、約7割と依存度が高い状況です。次に対象区間を通過する、県中～県南間の通勤・通学流動についてですが、平成22、27の比でいうと1.11倍と増加傾向にあります。また、対象区間沿線は生活圈中心都市である、郡山市や白河市からの所要時間が30分以上で、通勤に負担がかかっている。

P5、産業について説明します。左上グラフは総生産額における第二次産業の割合を黄色で表記しており、約4割と全国に比べ高く、製造業などが地域産業を牽引しています。左下は製造品出荷額を対象地域は赤で表記。東日本大震災（3.11）前のH22年を1とした場合、H27年度で0.91であり、全国1.08と比較し伸び率は低いが、対象地域の工場増新設件数は5年連続で福島県内1位と製造業の集積が進んでおり今後も伸びが見込まれます。

P6、福島県は国内屈指の医療機器生産県であり、医療機器受託生産金額では全国1位で近年さらに増加傾向にあります。また、さらなる集積を図るため、福島県は「うつくしま次世代医療産業集積プロジェクト」を実施しており、「福島県復興計画」の重点施策の1つとして、「医療関連産業の集積」を位置づけています。

県内各地から大手メーカー等に医療機器を輸送する際に、対象区間の2車線区間が物流のボトルネックになりますが、右下の物流事業者や製造業、メーカーの声からも明らかであります。

P7、物流について説明します。対象地域の大半は東京都及び仙台市の両地域から200km圏内に含まれており、トリップ長分布では、対象区間を走行する貨物車の約9割が移動距離200km未満となっています。国道4号走行の貨物車のOD内訳は、赤で表記した県中と県南、県中と関東を結ぶ交通で約6割をしめます。右側グラフは、赤が矢吹町の2車線区間市街地部での速度の分布状況です。緑が4車線化済みの白河市の市街地部の状況です。平均速度が矢吹町では34.7km/h、白河市では40.2km/hであり、速度差は、矢吹町が26km/h、白河市が20km/hの結果です。このように4車線化済みの区間と比べ劣り物流の支障となっています。

P8、開発計画について説明します。東日本大震災や原発事故に伴い、約234haの工業団地が喪失しましたが、産業復興に向け企業立地の受け皿となる新たな工業団地「新たな工業団地 約20ha」が造成されました。詳細は右側の拡大図を参照。矢吹ICの近く矢吹町内に計画しています。新たな工業団地から矢吹IC間のアクセスルートとして、貨物車の集中が見込まれると予測しています。

P9、救急医療について説明します。対象区間沿線の二次救急医療機関である会田病院には、年間約500件の救急搬送があり、主な搬送ルートは国道4号です。対象区間は大型車の交通量が多く救急搬送時の追い越しが困難であり、救急搬送の支障となっています。

特に渋滞時は減速・加速の回数も多くなり搬送患者の安定搬送も課題であることが、白河広域地方消防本部のヒアリングからも明らかです。

P10、交通現況について説明します。国道4号は福島県内の一般道における交通の大きなウエートを担い、福島県内の平均交通量は約3万3,400台になります。2車線である対象区間には約8,000台の大型車交通が集中しており1車線当たりの大型車交通量は、東北最大です。

P11、渋滞状況について説明します。対象区間は2車線であるが1日約2万台の交通量で混雑度は1.4に達します。また東北地方の国道4号2車線区間のうち、混雑度1.25以上の区間で最も遅い旅行速度を示します。左側の「対象区間の旅行速度」では、主要渋滞箇所である矢吹中町交差点を中心に慢性的な速度低下が発生しており、物流等の利用交通の支障となっています。

P12、交通事故。対象区間では、追突事故が全体の8割以上を占めています。特に矢吹中町交差点付近で事故が多いことが左下の「死傷事故率(100mピッチ)」の図でわかります。直轄国道平均の約4倍となる箇所が存在しており、近年死亡事故も発生しています。右の写真は平成25年の正面衝突による死亡事故の物です。同じような場所でイタルダデータにはまだ反映されていませんが、左下の図の2対象区間で2つの青丸が付いていますが、1つがこの25年8月の死亡事故で、もう1つの死亡事故が去年の12月30日正面衝突による死亡事故で1人亡くなりました。

P13、地域に配慮すべき事項自然環境分布について説明します。一既存文献から重要な動植物であるサシバやハヤブサ等が分布する地域です。これら分布の可能性が確認できれば影響を軽減する必要があります。

P14、政策目標の素案について説明します。前述の地域や、道路交通の課題とその要因についてまとめています。対象地域は、国道4号2車線区間に交通が集中し、地域間連携の道路ネットワークが脆弱な為、地域産業の停滞や救急搬送に支障といった課題を整理しています。また、慢性的な交通混雑や交通事故が多発している課題についても整理しています。これまでの説明通り、国道4号2車線区間は、交通需要が交通容量を上回ることが原因で様々な課題が見受けられています。

P15、政策の将来像との整合について説明します。政策の将来像、沿線地域に掲げている計画を示しています。

福島県では産業拠点を結ぶ道路の整備、高速交通ネットワークのアクセス強化、緊急救急搬送受け入れ体制の確保を掲げています。矢吹町では産業活動の環境整備、都市活力の維持・向上の基盤となる幹線道路網の形成。鏡石町では、交通安全対策の推進といった点をもとに将来像が描かれています。

P16、政策目標の案(整備方針の検討)について説明します。前述の通り、地域や道路交通の現状と課題、将来像を踏まえ、①交通の円滑化、②交通安全の確保、③地域連携強化、④安定した救急搬送をもたらす道路ネットワークの確保の4つを政策目標としてい

ます。目標達成の為、交通混雑の解消、交通事故の減少、速達性・定時性の確保、安定した救急搬送環境を考慮し、安全・安心で円滑な走行空間を確保するとともに、地域産業振興を支援する道路ネットワークを構築していくため、複数の対策案を今後設定して、比較、検討していきたいと思えます。

P17 意見聴取方法について説明します。意見聴取の項目は、①国道4号の利用状況、②地域の課題について、③道路整備の必要性についてとしています。①の国道4号の利用状況についての把握する部分は主な利用目的、移動手段、利用頻度。②の地域の課題については、提示した複数の課題について、どの程度の問題か、また示した課題の他に困っていることや問題点はないか。③の道路整備の必要性については、道路整備の必要性があるかないか、意見聴取の予定です。

P18 意見聴取方法について説明します。アンケート調査の対象は、地域住民、事業者等、道路利用者としており、地域住民については、矢吹町、鏡石町の1万51世帯を対象に郵送配布により、郵送配布で、全戸2通配布を予定しています。事業者等については、矢吹町、鏡石町の企業を検討しており、同様に郵送での配布を予定しています。道路利用者には、県中と県南地域の沿線地域を対象としWEBや留置アンケートを予定しています。また、ヒアリング調査も実施予定であり、自治体、観光協会、経済団体、農業協同組合等の関係団体、計18団体を対象にする予定です。

P19、アンケート用紙は、別添えの資料2を参照して下さい。こちらが実際のアンケート用紙です。1枚目が住民用の表紙、2枚目が裏面で事業者用の表紙、3枚目が住民用と事業者用の共通する中面となります。表紙では、アンケート対象となる道路の概要及び計画段階評価の流れを記載しており、中面では対象区間の課題について、これまでの整理結果を元に記載しています。

P20、住民アンケートの質問事項についてです。回答は、はがきに記載する形式です。道路利用状況については、主な利用目的や移動手段、利用頻度について選択式の単一回答とします。次に地域課題や国道4号の課題、その他の課題についてですが、地域課題と国道4号の課題は選択式の単一回答で、その他の課題には自由記入として回答してもらいます。質問3は、課題解決の為に、道路整備の必要性について選択式の単一回答にて回答してもらいます。質問4は、その他、国道4号の対象区間についての意見や要望を自由記入してもらう予定です。

P21、事業者アンケートは、住民アンケートとほぼ同じで、質問1の「主な利用目的」「主な移動手段」の回答欄が住民アンケートと異なります。

P22、今後の計画段階評価の進め方についてです。本日の小委員会で、地域や道路交通の現状と課題、政策目標の設定等を審議し、その後の意見聴取で地域住民から意見をもらう予定です。その意見を踏まえ、次回の小委員会で引き続き委員の先生方から審議いただく予定です。

浜岡委員長 ただいま説明があった内容について、御質問、御意見あればお願いします。

菊池委員 この対象区間は非常に重要であると十分理解できました。P11の対象区間の旅行速度の図で、中でも矢吹中町交差点がボトルネックになっているように見えますが、何か特殊な事情があるのですか。どうしても、この交差点の容量を確実にオーバーしているように見受けられます。図面だけではわからないので、どのような交差点なのか説明をお願いします。

大村所長 この交差点は2車線で、右折レーンも約10年前既に整備済みです。交差する道路は、東側が棚倉矢吹線という主要地方道であり、西側が天栄矢吹線という主要地方道であり、幹線道路と言っていい道路です。P11の左側の図にありますが、信号が矢吹中町交差点から郡山側に6カ所集中していることもあり、信号密度が多くここだけが原因ではなく、他の交差点で滞留している分も影響しており、それが重なって渋滞しているような状況です。かつ幹線道路と主要地方道との交差する道路で、交通量も多い状況です。さらに勾配が少々きつく、冬期間などは郡山側への上りが大変ということで渋滞がさらに増すと考えられます。

浜岡委員長 他に質問、意見などありますか。

小野澤委員 現状の問題を解決することでP16以降の政策目標の具体的な状態や事故、産業、医療という点を改善できるのは理解できましたが、4車線化することで新しい地域への利点はないのかと考えました。例えば観光面では交通がよりスムーズに流れるような形になれば観光客が見込める等別の視点からの利点はないのですか。

大村所長 観光について矢吹町で全国に周知される観光地は、今現在はない。P13で省略しましたが、自然公園で三十三観音史跡公園というのが、JRの駅から西側、東北縦貫道付近にあります。人数はあまり多くはないが、日頃、地域住民のレクリエーションの場とか、あるいは本当に史跡に興味のある方は関東方面からも来ているとの調査結果があります。三十三観音と書いているが、数えると36ぐらいあり、製作時期も不明で平安時代頃に作られたのではとされています。このような地域資源が矢吹町は結構豊富であります。現在矢吹町では道の駅の検討も行っており、地域住民や関係者がどんな道の駅を作ったらいいか検討中であり、地域資源を生かし観光拠点にもしていくことを矢吹町から聞いています。観光振興にも矢吹町、鏡石町も忘れてはいけません。鏡石町については、田んぼアートがあり、毎年違った絵を描き、図書館の3階から見られる等様々な工夫をしています。以上のことを連携し、観光客が増えるよう努めています。その為、渋滞しないよう円滑な交通を確保するという意味でも4号の整備により観光に寄与したいと考えています。

温井委員 関連の質問ですが、観光はそれぞれ矢吹町、鏡石町の観光資源について説明がありました。観光は周遊、道路は特に重要だと考えられます。この辺は詳しくないですが、例えば白河の南湖公園に出かけた際、郡山からバスで行った例があり、その区間を利用する観光の周遊のルートとしてどんなものがあるかを、次回でもいいが、あるいはアンケートのときに、周遊的な視点から資料をつけて欲しいです。

大村所長 委員の先生おっしゃるとおり、南湖公園、白河にあり、白河城もあります。また、白河ダムもあります。そのようなことで、近隣周辺は色々と観光拠点もあります。そういう周遊観光。将来の計画もあわせて、今後アンケートも含め検討していきたいです。

浜岡委員長 P12で交通事故の状況が示されています。事故のことではなく、左下に現地の地図を描かれていて、ちょうど矢吹駅の左側に小学校があります。ここは2車線道路で、大型車の混入率が3割と非常に高く、子供の通学路と重なっていると大きな問題になると思われませんが、このあたりの状況を教えてください。

大村所長 4号に一番近いのは矢吹小で、4号自体も通学路に一部区間なっています。この区間は信号が多く、間に横断歩道橋も2つか3つあったはず。そういう意味で児童の通学の配慮も必要だと考えられます。現在2車線ですが、矢吹町の用途区域内の市街地での歩道状況は、両側に2mの歩道があるところもあれば、片側しかないところもあり、事業化が認められれば対策をしっかりとしていくことを考えています。

浜岡委員長 事故の写真で歩行者が利用すると非常に危険です。対策が必要であると思いました。

高樋委員 アンケートの回収率はどれくらいなのですか。観光の話も出ましたが、回収されなくても色々な情報がこの中にあるので、回収率とあわせて伺いたいです。

大村所長 過去に東北地整の、道路事業関係で行っていますが、平均すると回収率は15%~35%程。約20%回収目標。信頼度もそれで問題ないと統計学上把握している。

浜岡委員長 アンケートに関して質問ありましたが、今後アンケートをすることで、資料2の内容を一般の方に書いてもらう予定です。質問項目で観光のことも少し検討してほしいとあったが、内容として何かお気づきの点などありましたら質問、御意見をお願いします。

小野澤委員 まず確認したいのは、資料22ページの今後の進め方の「意見聴取」が2回あるのですが、資料2のようなアンケートは最初の意見聴取で使うものなのですか。

大村所長 おっしゃるとおりで先ほど説明したのは、このP22の左から2つ目の「意見聴取」、地域や道路交通の課題のアンケート調査についての説明です。アンケート調査表、資料2もこれです。左から4つ目の、次の委員会の後のアンケート調査は、対象ルート帯を検討する際の重視する項目という視点で、次回の小委員会の際審議願います。

小野澤委員 それを踏まえた上で、住民への質問②の、課題について住民の方がどう思っているかを聞く質問で、②の1の「地域課題について」も2つの問いがあり、両方とも文章が長く、住民は何を答えていいのかがわかりにくいのではないかと思います。文章が長いと誘導的な結果を導くということが教科書にも書いてあり、それぞれの文章の「何々がものの」という前半部分はなくても通じるのではないのでしょうか。住民目線の表現にする必要があると思います。例えば、最初の質問に「物流」という言葉が出てきて、資料でも「物流」という表現が何度も出ていますが、一般利用者は「物流」という表現ではなく、2番目の質問でも、「トラックがたくさん通っているので救急車が通りにくい」のような表記の方が分かりやすいと思いました。

小野澤委員 業者は「物流」表記でいいですが、住民にはわかりやすい表記が必要だと思います。子供が歩いていて歩きにくい等、身近な表現が必要かと思います。

大村所長 住民視点の表現が不足しているので、わかりやすい表記に修正します。

浜岡委員長 アンケート配布エリアはで事業所は関連する2市町村の事業所だが、物流関係者は、もう少し広範に捉えた方がいいと思います。その辺りはいかがでしょうか。発着点は対象地域ではないが、通過する車もいるのではということだが検討をお願いします。

大村所長 検討させて下さい。

菊池委員 16ページに政策目標を提示いただき、赤の①から④が政策目標案となっておりますが、アンケートにおいてもこのまま使用するか別にして「物流」というキーワードが出ておりますし、今日の資料の方でも物流の問題が取り上げられていますので、この目標の中に物流、あるいは関連したキーワードを入れる検討をお願いします。地域連携という非常に広範な物になっているので、もう少し絞ってこの目標のご検討をお願いします。

大村所長 物流に関しましては、4つの目標の3番目に該当するという認識でしたが、物

流ということが「地域連携」という言葉でやや不明確なところもあり、物流ということがわかる形で、政策目標を増やすのではなく、文章を変えさせていただくなど、検討させていただきます。

浜岡委員長 矢吹鏡石道路につきまして、様々な観点から意見いただきました。特に現状の抱える問題などは非常に大きな問題があることを十分認識できた。一部、アンケートの聞き方等については、今後、先生方と事務局とで連絡をとり合いながら再検討していく形で進めたいが、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、国道4号矢吹鏡石道路についてはこれで終了とし、次の議事の国道108号石巻河南道路の方に移ります。先ほどと同様に、背景から今後の進め方について全て説明いただき、この後、質疑を行いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

・国道108号 石巻河南道路

松居所長 石巻河南道路について、資料3をご覧ください。評価の対象区間を広域図面で表記。石巻から山形の酒田まで約160kmの108号であります。そのうちの起点側である石巻市の区間が今回の対象となります。

P2、評価の進め方は今回の小委員会、手続の進め方、地域や道路の課題等を審議し、アンケートで意見聴取を予定しています。得られた案の意見を聴取し、結果も踏まえ、最終的な概略ルート・道路の構造を決めます。過程には地域住民の意見を絞り込むこととなります。

P3、土地利用の概要です。石巻周辺の拡大地形図です。対象区間はこのような形で、石巻市～旧河南町と言われているところです。現在は石巻市ですが、この区間を対象としています。

P4、人口の関係です。石巻市の人口の高齢化のグラフが右下にあります。高齢化率は全国平均並びに宮城県の平均値と比べれば高いですが、さらに深刻だと考えるのはその上のグラフで、いわゆる生産年齢人口が全国の7割程度まで落ち込んできていることです。この点が非常に大きな1つ地域の課題としてあります。

P5、石巻の交通の流れ。これは国勢調査等で人が交通ルルに頼らずどう動いているかを示しています。108号方面については7割以上が車利用で、地方都市の様相を呈しています。

P6、石巻市の産業。石巻は、一次・二次産業の就業者が非常に多い。製造業関係の比率が高く、パルプや紙、また家畜関係の飼料の製造といったものに関連する産業が主体です。

P7. 石巻市は、石巻港（国際拠点港湾）を擁する都市です。この港の機能をうまく使い、先ほど説明したパルプや製紙業を中心に出し入れをしています。後ほど詳細をご紹介します。

P8. 製紙業の動きは、右下の絵。奥羽山脈あたりで色々と木材関係の原料が出てきて、東北道や国道4号沿いにチップ化する工場が配置されています。チップ化された原料を、例えば石巻港に運んで、海外や関東圏などに運び出しています。

P9. 木材関係の流れは、宮城県の本木需要は合板を作っているのが大きな特徴で、東北エリアでも非常に高いシェアである。石巻市は合板関係の出荷額は非常に高く、7割程度石巻市である。そこで生産された合板は108号等を通じ、内陸並びに港を通じて出荷しています。

P10. 飼料の関係。養豚関係が中心。真ん中の赤いグラフがあるが隣の県の山形県の養豚業というのはその8割強が庄内地方にあります。庄内地方は、左側の図面の山形県の日本海に面したエリアで、このエリアの豚の生産量が8割程度です。内9割の飼料が石巻港から来ている。なので山形県の7割ほどの養豚業の豚というのは、石巻港から7割ほど原料を入手しているということになる。

P11. 石巻市は、東日本大震災の影響が非常に強かった都市であり、復興計画等も現在進行中です。工業団地や新たな市街地は、左側の図面の薄い水色のハッチが津波の影響を受けたところで、ここを外しさらに内陸側に各種施設が展開されつつあります。そのようなこともあり、右側のグラフで、河南地区と言われる内陸側の人口が非常に伸びており、河南地区の主要な道路を支えているのは108号でなっています。

P12. 次は医療であります。医療については、石巻のいわゆる三陸縦貫自動車道という高速道路がありますが、これも石巻女川インターの近くに三次医療機関があり新しく、平成28年に矢万急患センターが立地しています。ここで高度医療を受けることが可能となっており、石巻並びにその周辺エリアから、高次医療を要する患者が通っており、救急搬送されています。

P13. 観光についてです。石巻の観光は、左上のグラフで、震災後従来の6割程度まで観光入り込み客数が減少しています。震災後7年経過しましたが、まだ戻ってない状況となっています。現在石巻港では、いわゆるクルーズ船を来年から誘致して、インバウンドの弾みにしようとしています。

石巻の周辺には、日本三景であります松島や鳴子の温泉等観光施設があり、国道108号並びに三陸道を活用して周遊性を高めていく、ということも必要であると考えられています。

P14 東日本大震災のときの状況は、津波でやられた沿岸部に対して、内陸側からくしの歯的に物資並びに支援の手が伸ばされておりました。その主要ルートの1つが国道108号で、右上にあるとおり、石巻市と大崎市、新庄市、酒田市と広域的な応援相互協定を結んでおり、国道108号沿線には涌谷スタジアムを初め、航空自衛隊の松島基地や、広域

的な災害が発生したときに拠点となる施設があり、ここのアクセスを確保していくことも重要です。

P15、具体的に国道108号の区間を見ていきます。道路の構造で特徴的な部分としては、直轄国道に直角クランクがまだ残っている所です。また、下の写真の左から2番目を見ていただくと、通学路なのに、歩道がなく非常に危険で、全般にこのような区間が多々あり、最低限の安全性がまだ確保できてない数少ない直轄国道の1つであります。

P16。先ほど紹介した直角クランクは渋滞ポイントで、時間帯別の渋滞状況が下のグラフ（赤色部分）にあるが、日中あらゆる時間帯で渋滞が発生しています。また、青い縦線が上の図面に入っており、こちらが三陸縦貫道で、これに接続する区間も終日渋滞が発生しています。

P17。先ほど通学路の状況を説明したが、当該区間については事故の方も非常に深刻な状況になっており、事故の発生確率は300件/億台km以上となっています。

300件/億台kmというのは、何が物差しになるかというと、例えば東北の直轄国道の平均が真ん中下のグラフにございますが、45件/億台kmあたりです。したがって約7倍の事故の発生確率になっています。このように最低限の安全性の担保が緊急課題となっています。

一方で、沿道には家屋が林立しており、容易な拡幅が困難な区間となっています。

P18。これまでの課題を左側に列挙した上で、道路の現状と課題をぶら下げ、キーワードを「課題」とし整理しました。安全・安心、医療連携、周遊観光、地域産業支援、防災です。

P19。また、県や石巻市がマスタープランや各種基本計画において、今回の5つのキーワードでどう計画を持っているか示したのですが、それぞれ県、市、自治体でも同様であります。

P20、石巻広域都市計画区域の基本的な方向性を示したマスタープランのイメージ図です。この中にも、「都市づくりの基本方針」というイメージ図があり、青い矢印で上下に記載されているのが、「地域高規格道路（候補路線）」となっていますが、これが石巻河南道路の全体構想になる路線です。このように地域の将来構想の中にも位置づけられています。

P21、5つのキーワードに対し解説文をつけていく形で整理しております。こちらをアンケート用紙の方に転載し参考にしてもらおう考えです。安全・安心は、今の歩道の状況等です。医療の連携については、三次医療施設へのアクセス性の問題です。周遊観光については、観光支援を円滑にやっていく観点です。また、地域産業支援については、「物流」という言葉を使っていますが、ここは別途、郡山と同じように表現の方法については工夫を検討します。物流の支援、いわゆる石巻を支える基幹産業でもあるので、ここはしっかりと聞き取りたいと思います。また、東日本の重篤な被災地として防災の観点といった説明文を用意しています。それらを踏まえ、意見を聴取していきたいと考えております。

P23、意見聴取の方法ですが、実施の対象は、真ん中の四角囲みですが、石巻市の道路であるが、その周辺である東松島市、大崎市、女川町、涌谷町、美里町とします。石巻と通

勤並びに産業上のつながりがある自治体に対しても全戸配布を行い、意見を聴取していきます。事業所については、紹介した自治体の主要な事業所600ほどを抽出し、郵送配布をかけていきます。一方で、国道108号は比較的広域な利用もあるという路線なので、WEBを使って一般利用者の方の声も吸い上げたいと思っています。さらに、教育機関、道路を利用しているトラック協会や地域の産業を支えている商工会議所等も意見を求めていく考えです。具体的なアンケート用紙については、住民用も事業者用も基本的には同じ内容で提示していますが、資料4に、比較的シンプルな問いかけで、問1としてこれまで説明してきた、地域の課題というのは何だと思われますかという観点で、先ほどの5つのキーワードを聞いていきます。また、その課題と道路の関係を捉える為に、どのような道路が必要かという点も、5つの観点から聞いていきます。それぞれの課題認識の大きさと道路に対する課題認識を重ね、今後のルート帯等の検討に反映させたいと考えています。

浜岡委員長 ただいまの内容について質問、意見などあればお願いします。

温井委員 P10、私の東北公益文化大学、酒田にありまして理事長が平田牧場の新田さんと非常に関係が深い。思ったのは庄内の豚の餌のトウモロコシが石巻港に入り、今回の道路で庄内に入る説明を聞き、なぜ酒田港ではないのかと思いました。日本海と太平洋を結ぶ大きな道路の検討なので、国際的な船舶の流れや、石巻港と酒田港の性質の違い、今後どのように考えられるのか。それらを踏まえ、この道路の必要性が議論されるのがいいと考えられます。もう1点。今の話の要約がP18、地域産業支援の「産業」のところですが、もう1つ、「観光」でも、例えばインバウンドの観光で山形県の空港は山形空港も庄内空港も国際ターミナルはないですが、将来的には海外からの観光客が来て周遊といった際、この道路を使って日本海側の庄内空港でおりて松島へ運ぶなど、大きな周遊が観光では出てくるかと考えられます。観光面でも、空港との関係等も検討いただきたいです。

松居所長 石巻港、酒田港の相違や機能の分担、空港との関係も勉強していきたいと思えます。

浜岡委員長 恐らく酒田港でないのは、石巻に来るトウモロコシ全てが酒田行きでなく他へも行っているためではないかと思えます。ただ、庄内地域で使うトウモロコシは全て石巻から来ているのかと思えます。全て石巻の物が酒田に行くのであれば、初めから船で運べば良いと思えますが、恐らくそうではないのかと思えます。空港と道路の関係については少し整理が必要であると思えます。

温井委員 補足で、国際的な船舶、貨物の取扱量は中国の港が大きく、北米と中国の間を行き来しており、津軽海峡を渡り酒田の沖合を通っているらしいです。中国行きの船が酒

田に寄るとか、将来的にどういう流れがあるか。そちらは港湾局が詳しいのかもしれませんが。逆に中国行きの船が酒田に寄り太平洋側に来ることも考えられます。それらも資料収集をお願いします。

菊池委員 今回のアンケートではなく、次のルート帯を検討される際に検討いただきたく発言します。石巻港に製造工業が非常に多く、そこからの物流がこの道路の1つの特徴だが、P16で交通が円滑化されることで、交通がスムーズになり最終的に蛇田交差点がボトルネックになる可能性もあります。ちょうど蛇田交差点あたりが対象区間の起点かと思いますが、そこからの出入り、その交差点の容量などもそのルート帯を検討するときにはご考慮をお願いします。

松居所長 了解しました。

小野澤委員 P15の学生歩行者の写真もあり、市街地の間を通っているイメージと物流の幹線道路と両方の役割がありますが、全体を見て道路の目的をどう理解すればよいですか。現地へ行ったことがないのでわかりませんが、生活道路的な使用が重視される地区なのか、港やIC等、または酒田へ抜ける産業において重要な路線か。道路の特徴の全体像のご説明をお願いします。

松居所長 物流と生活交通、どちらも競合する路線がない状況で、1本の道路で全ての機能を担っている。それぞれの課題を充実できる対案を考えたいです。比較した場合、物流機能と生活機能の優先順位をつけるのは困難です。安全は最低限担保が必要で、通学路に歩道がない状態をここまで放置してきたのも問題点。生活道路としての機能と物流機能は等しく重要と考えております。

小野澤委員 そう思ったのですが、構造的にも両立困難かと思い、専門家ではないが、確認することで、別な箇所での渋滞が起こればよい場所を決める等、検討する必要があると思います。

松居所長 具体的構造等の検討は、御指摘を踏まえて検討したいと思います。

菊池委員 アンケートで資料4の問1と問2の、A、B、C、D、Eは関係が強いのではないかと思います。問1と問2は似たような回答が予想されます。紙面の少ないアンケートなので、別の物をご検討をお願いします。例えば問2。それぞれ必要かより、優先順位をつける、3つ選択してもらう等ではどうでしょうか。

浜岡委員長 アンケートの間2は踏み込んでいます。郡山とは違う。踏み込んだ質問は、2回目のアンケートで聞くことでもないでしょうか。路線選定を考える際、どのような道路がいいか聞いたが、そのときの字句の1つであったように思う。もう一度検討願う。

松居所長 了解しました。

小野澤委員 23ページの聴取方法は、住民へは全戸配布ということで、個人も回答すると思いますが、1票ずつ配布するのですか。1世帯1個人が回答するということになるのですか。

小野澤委員 そうすると、運転者の回答のみの可能性もあり、その道路を使う歩行者に聞いてみるということができるような工夫があるといいと思います。

浜岡委員長 郡山のときの説明では、1世帯当たり2通配布されるということでしたが。

松居所長 1世帯当たり2通入れますので、ご夫婦、もしくはご家族の方も答えられます。

小野澤委員 わかりました。そうすれば複数の方、色々な立場から回収出来ると思います。

高橋委員 配布先とあわせてですが、生活道路を考えるのであれば、障害者団体や交通弱者の意見も取り入れられるように、関係団体の中に入れてみてはいかがでしょうか。

浜岡委員長 P23には今質問いただいた団体は入ってないのでご検討をお願いします。

松居所長 検討させてください。

温井委員 小野澤委員の質問を聞き思ったのは、事前レクチャーを受けた際、高規格道路の説明をいただいたので、今回の道路は自動車専用道路のイメージを持って聞いていました。今回の資料でも生活道路として非常に危ないという状況があるのですが、これは第2回のテーマとなりますが、そのときに2本作るという話が出てくるのではないかと思います。アンケートをかけるのと時に2本なのか、1本なのか、どちらかを選んでもらうことになると思います。その際は予算や実現性ということで、ある程度委員会には教えてもらい、進めていただきたい。どうでしょうか。

松居所長 地域高規格道路は自動車専用道路でなくてもよく、一定速度のサービスは考慮しますが、必ずしも高速道路ではないです。生活道路と物流の両立は、ルート位置や構造

で決まるので今後の課題であります。

温井委員 そうすると場合によっては2本もあり得ると考えてよろしいですか。

松居所長 新しい道路を作る際に現道の役割は大きく変わります。現道の使い方を議論していく必要がある。例えば幅員をかなりいじめる等やり方は出てくるのではないかと思います。

温井委員 新しい道路を作った際に、現道を安全に改良し、2点の対応になると考えていいでしょうか。

松居所長 それも1つの案だと思っています。

温井委員 どうもありがとうございました。

阿部道路部長 補足ですが複数ある機能を担保する道路構造となる考え方が正確だと思います。その際、道路が2本になるか1本になるかは構造上の話で今2本にしますとは言えないです。少なくとも必要な機能は担保にしていくということになると思います。

浜岡委員長 他にありますか。一石巻河南道路について概ね妥当で了承をいただけますか。一ありがとうございます。今日の意見を踏まえた上で、事務局と連携を図り進めます。審議を終わりますが、全体を通じて質問ありますか。本日の資料の公開・非公開について確認です。HP等に資料を全て公開したいと思いますが、いかがですか。一ありがとうございます。本日の資料一式公開致します。事務局側から御説明ありますか。

舟波課長 議事概要については、速やかに作成し委員長に確認いただいた上で公表したい。詳細な議事録については後日、委員の皆様へ送付するのでそれぞれご確認下さい。

浜岡委員長 今の流れで進めたいと思います。議事概要は私の方で確認します。

司会 本日は誠にありがとうございました。第19回小委員会を閉会いたします。